

- ・本資料は、当社の経営方針等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。
- ・本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。
- ・本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

証券コード：8609

株式会社 岡三証券グループ

2026年3月期

決算・経営戦略説明会

2026年 5月 15日

目次

- 01 2026年3月期決算概況
- 02 グループ概要、トピックス等
- 03 成長戦略（1）～（3）
- 04 経営指標目標、株主還元等

01

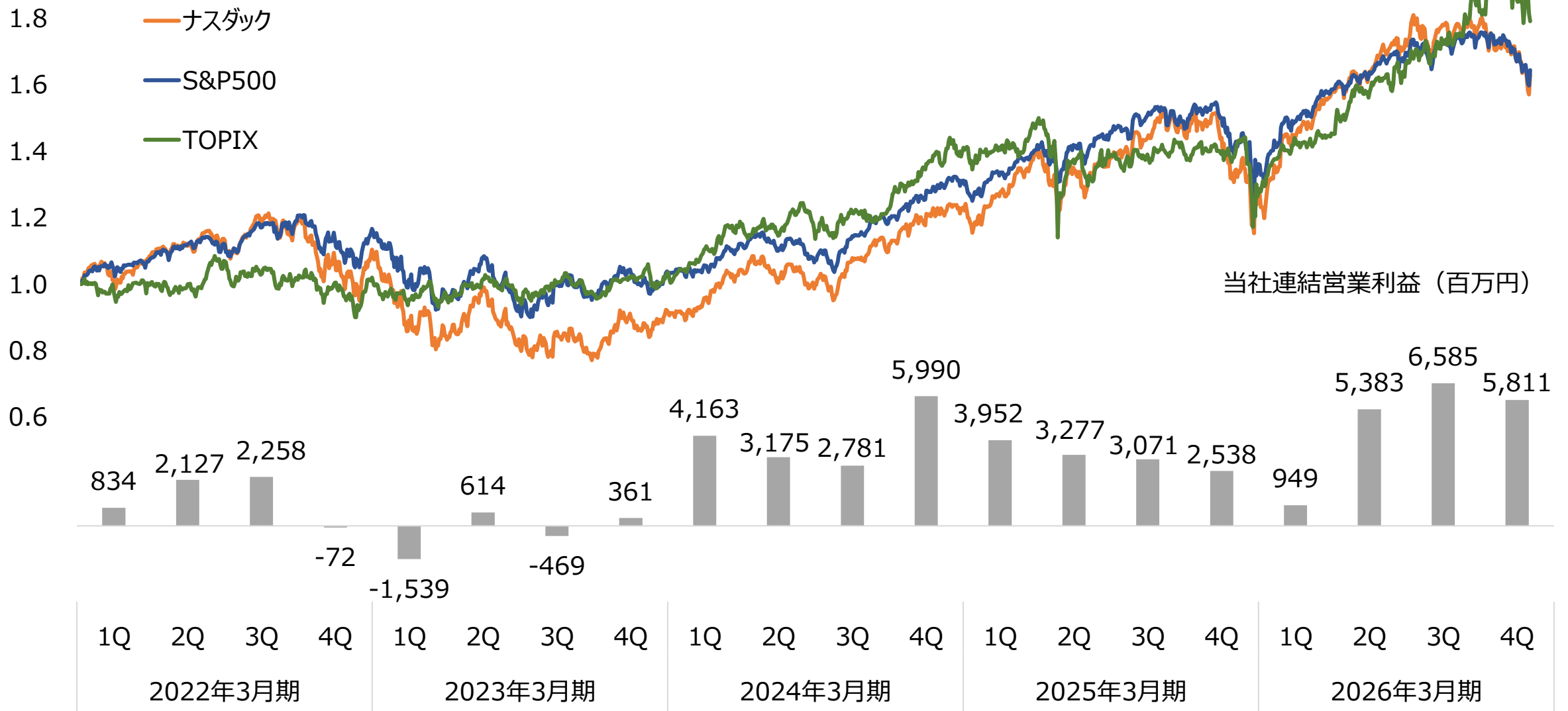
2026年3月期決算概況

2026年3月期の総括

- ✓ 日経平均株価や米主要株価指数が最高値を更新する中、株式関連収益を中心に業況は堅調に推移
- ✓ 親会社株主に帰属する当期純利益は過去最高を記録
- ✓ 証券プラットフォーム事業は着実に進展
- ✓ 岡三BANKや岡三UBSファンドラップも進捗し、口座数・資金導入ともに継続して増加

日米株価指数と当社連結営業利益の推移

2021年3月末 = 1にて指数化

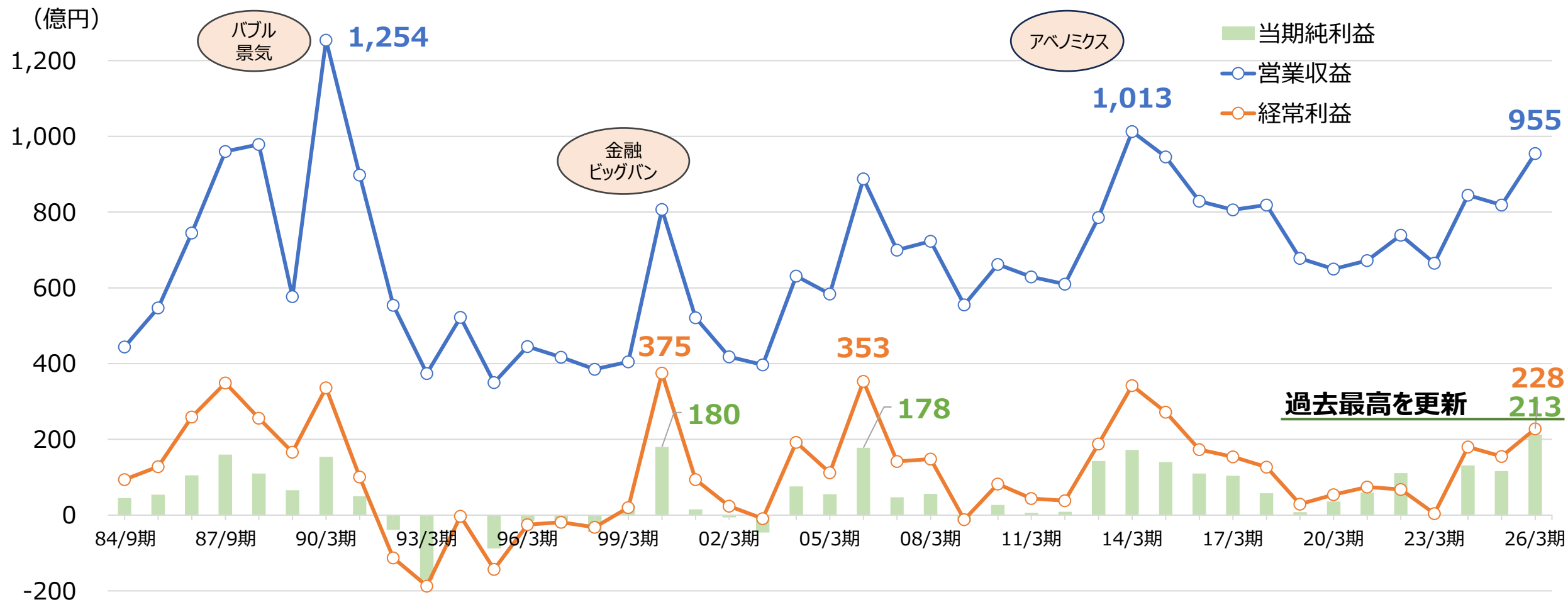


決算ハイライト

(単位：百万円)

| | 2025/3期 | 2026/3期 | 増減率 |
|-----------------|---------|----------------|-------|
| 営業収益 | 81,936 | 95,595 | 16.7% |
| 純営業収益 | 79,849 | 91,835 | 15.0% |
| 販売費・一般管理費 | 67,010 | 73,105 | 9.1% |
| 営業利益 | 12,838 | 18,730 | 45.9% |
| 経常利益 | 15,577 | 22,867 | 46.8% |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 11,652 | 21,360 | 83.3% |

業績の推移



※89/3期は決算期の変更により6か月決算
 ※2003年10月以降は持株会社体制に移行

決算のポイント

✓ 営業収益は前期比**16.7%増**

2014年3月期以来、12年ぶりの高水準。

国内外の株式相場は年度末に中東情勢等の影響により減速したものの、期中全般では好況が続き、株式・投資信託関連収益は堅調に推移。

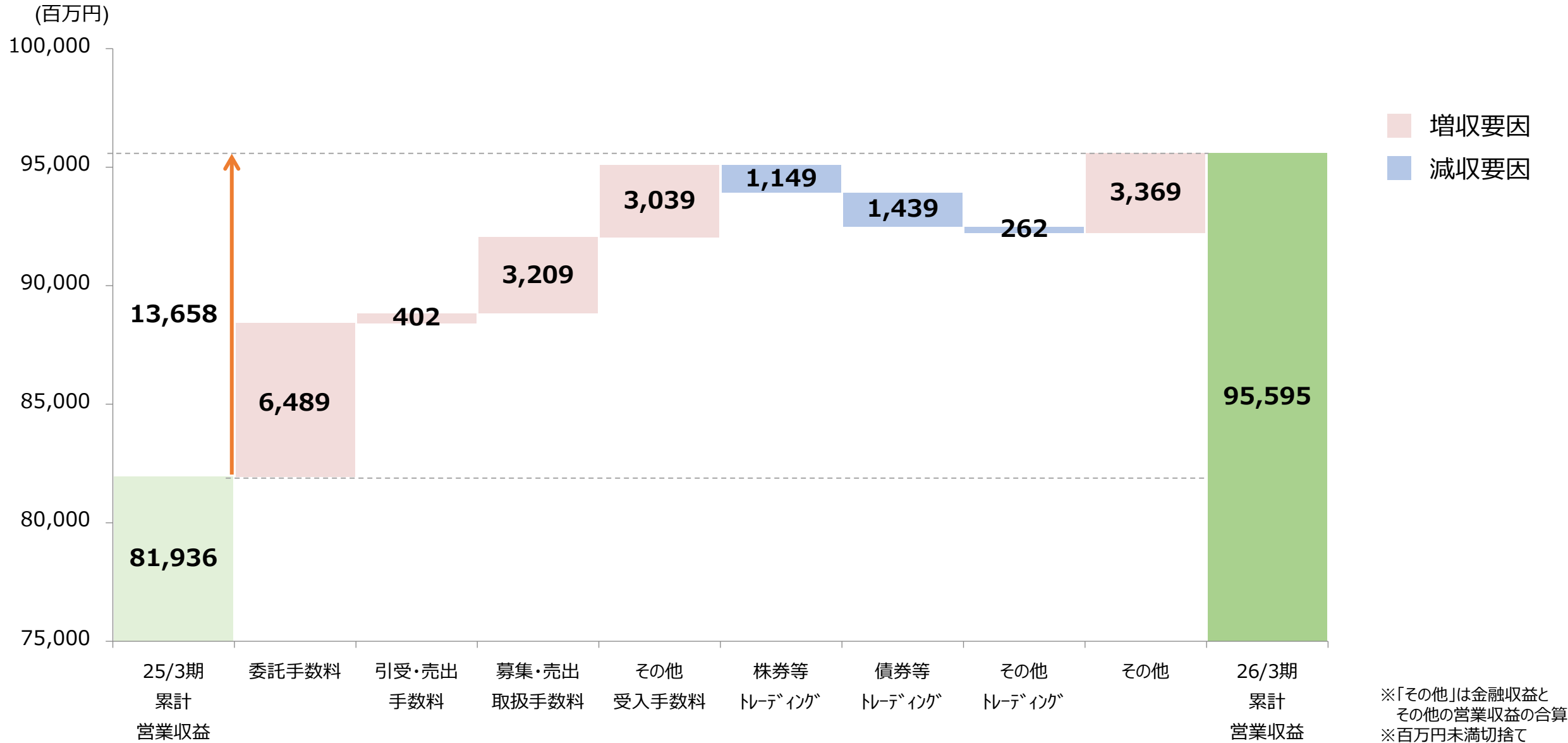
✓ 経常利益は同**46.8%増**

人件費等により販管費が増加したものの、持分法による投資利益等により営業外収益が拡大。

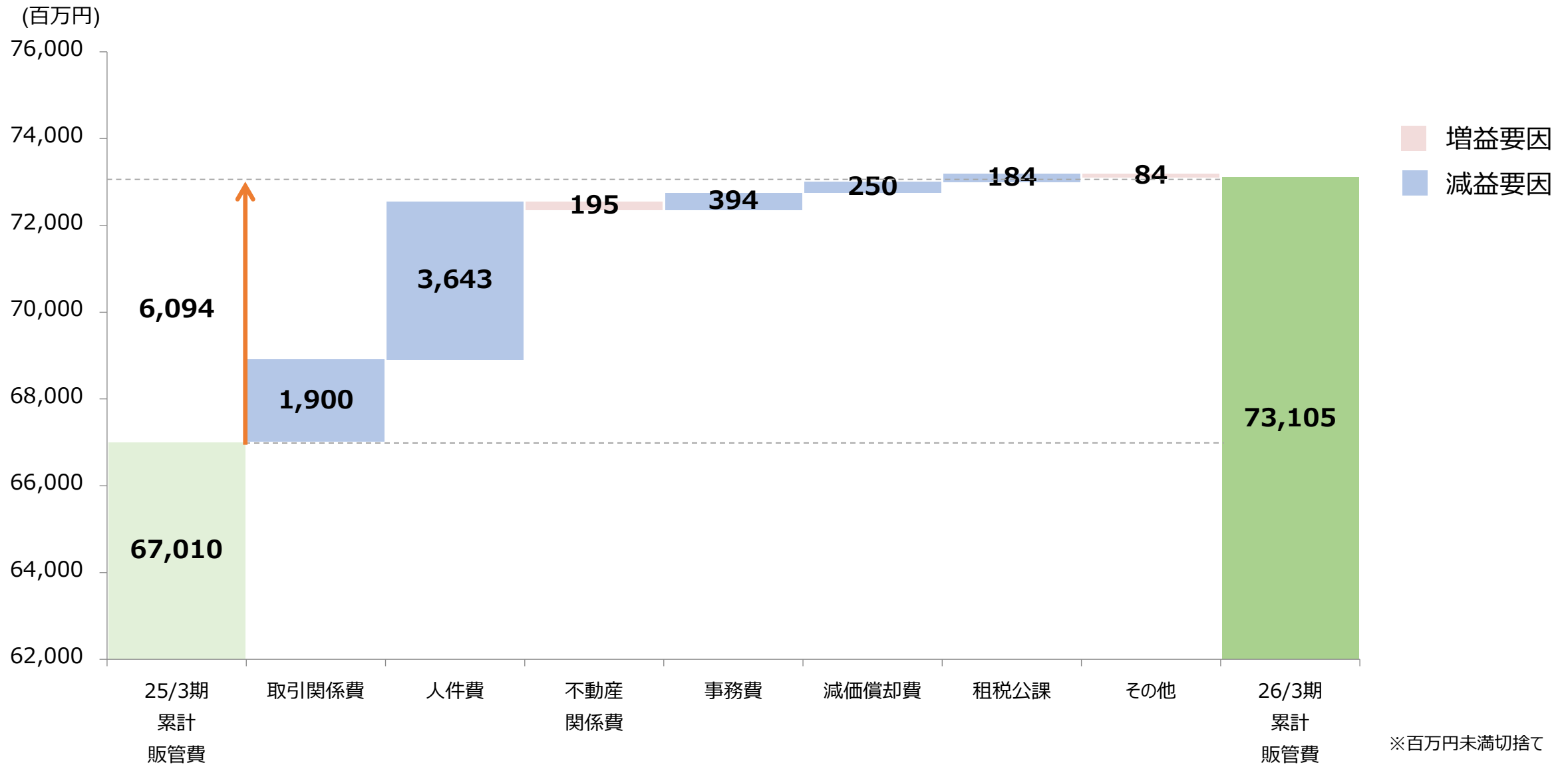
✓ 親会社株主に帰属する**当期純利益は同83.3%増**

過去最高益を更新し、初めて200億円の大台を上回る。

営業収益の変動要因（前期比）



販売費・一般管理費の変動要因（前期比）



四半期業績推移

(単位：百万円)

| | FY25.3 | | | | | FY26.3 | | | | |
|-------------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 累計 | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 累計 |
| 営業収益 | 21,117 | 20,384 | 20,723 | 19,712 | 81,936 | 19,145 | 23,912 | 26,246 | 26,291 | 95,595 |
| 受入手数料 | 12,976 | 12,686 | 12,592 | 11,946 | 50,201 | 12,436 | 15,046 | 17,321 | 18,536 | 63,341 |
| 委託手数料 | 6,392 | 5,383 | 5,687 | 5,448 | 22,911 | 5,651 | 6,902 | 7,686 | 9,160 | 29,400 |
| 引受け・売出し等の手数料 | 409 | 336 | 541 | 154 | 1,442 | 546 | 245 | 807 | 243 | 1,844 |
| 募集・売出し等の取扱手数料 | 3,224 | 3,949 | 3,259 | 3,101 | 13,534 | 3,102 | 4,178 | 4,721 | 4,741 | 16,743 |
| その他の受入手数料 | 2,950 | 3,016 | 3,104 | 3,242 | 12,313 | 3,135 | 3,719 | 4,106 | 4,391 | 15,352 |
| トレーディング損益 | 6,790 | 6,124 | 6,133 | 5,523 | 24,572 | 4,158 | 6,232 | 6,255 | 5,074 | 21,721 |
| 株券等 | 5,395 | 4,794 | 5,549 | 4,584 | 20,323 | 4,408 | 5,804 | 5,490 | 3,470 | 19,173 |
| 債券等 | 1,500 | 695 | 885 | 576 | 3,658 | -510 | 373 | 800 | 1,556 | 2,219 |
| その他 | -106 | 635 | -301 | 363 | 590 | 260 | 55 | -34 | 47 | 328 |
| 金融収益 | 928 | 1,161 | 1,393 | 1,819 | 5,303 | 2,126 | 2,161 | 2,179 | 2,145 | 8,613 |
| その他の営業収益 | 422 | 412 | 602 | 422 | 1,859 | 424 | 471 | 488 | 534 | 1,919 |
| 金融費用 | 476 | 410 | 489 | 710 | 2,087 | 879 | 876 | 896 | 1,108 | 3,760 |
| 純営業収益 | 20,640 | 19,973 | 20,233 | 19,002 | 79,849 | 18,265 | 23,036 | 25,350 | 25,183 | 91,835 |
| 販売費・一般管理費 | 16,688 | 16,696 | 17,162 | 16,463 | 67,010 | 17,315 | 17,652 | 18,764 | 19,371 | 73,105 |
| 取引関係費 | 2,606 | 2,534 | 2,747 | 2,787 | 10,675 | 2,783 | 3,016 | 3,340 | 3,435 | 12,575 |
| 人件費 | 8,319 | 8,504 | 8,504 | 8,215 | 33,543 | 8,594 | 8,967 | 9,521 | 10,104 | 37,187 |
| 不動産関係費 | 2,160 | 1,914 | 1,932 | 1,908 | 7,915 | 1,970 | 2,004 | 1,955 | 1,789 | 7,720 |
| 事務費 | 2,154 | 2,231 | 2,531 | 2,067 | 8,985 | 2,523 | 2,191 | 2,275 | 2,389 | 9,380 |
| 減価償却費 | 731 | 821 | 786 | 832 | 3,171 | 772 | 785 | 921 | 942 | 3,422 |
| 租税公課 | 381 | 319 | 320 | 277 | 1,299 | 312 | 359 | 412 | 398 | 1,483 |
| その他 | 333 | 371 | 339 | 374 | 1,419 | 359 | 326 | 336 | 311 | 1,334 |
| 営業利益 | 3,952 | 3,277 | 3,071 | 2,538 | 12,838 | 949 | 5,383 | 6,585 | 5,811 | 18,730 |
| 営業外収益 | 446 | 1,194 | 209 | 1,244 | 3,094 | 302 | 1,521 | 931 | 1,868 | 4,624 |
| 営業外費用 | 65 | 79 | 41 | 168 | 355 | 112 | 115 | 84 | 174 | 486 |
| 経常利益 | 4,333 | 4,391 | 3,238 | 3,614 | 15,577 | 1,139 | 6,789 | 7,432 | 7,506 | 22,867 |
| 特別利益 | 1,291 | 134 | 778 | 115 | 2,320 | 983 | 88 | 163 | 5,214 | 6,450 |
| 特別損失 | 225 | 11 | 38 | 732 | 1,008 | 106 | 970 | -100 | 480 | 1,457 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 5,399 | 4,513 | 3,978 | 2,997 | 16,889 | 2,016 | 5,907 | 7,695 | 12,240 | 27,860 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 3,309 | 3,369 | 2,832 | 2,141 | 11,652 | 1,717 | 4,482 | 5,578 | 9,581 | 21,360 |

02

グループ概要、トピックス等

直近の主なトピックス（予定含む）

2024年

- 9月 ・あいおい証券ウェルスマネジメント事業開始
・銀行サービス「岡三BANK」の提供開始
- 10月 ・ずかわ証券ウェルスマネジメント事業開始
・「岡三UBSファンドラップ」の提供開始

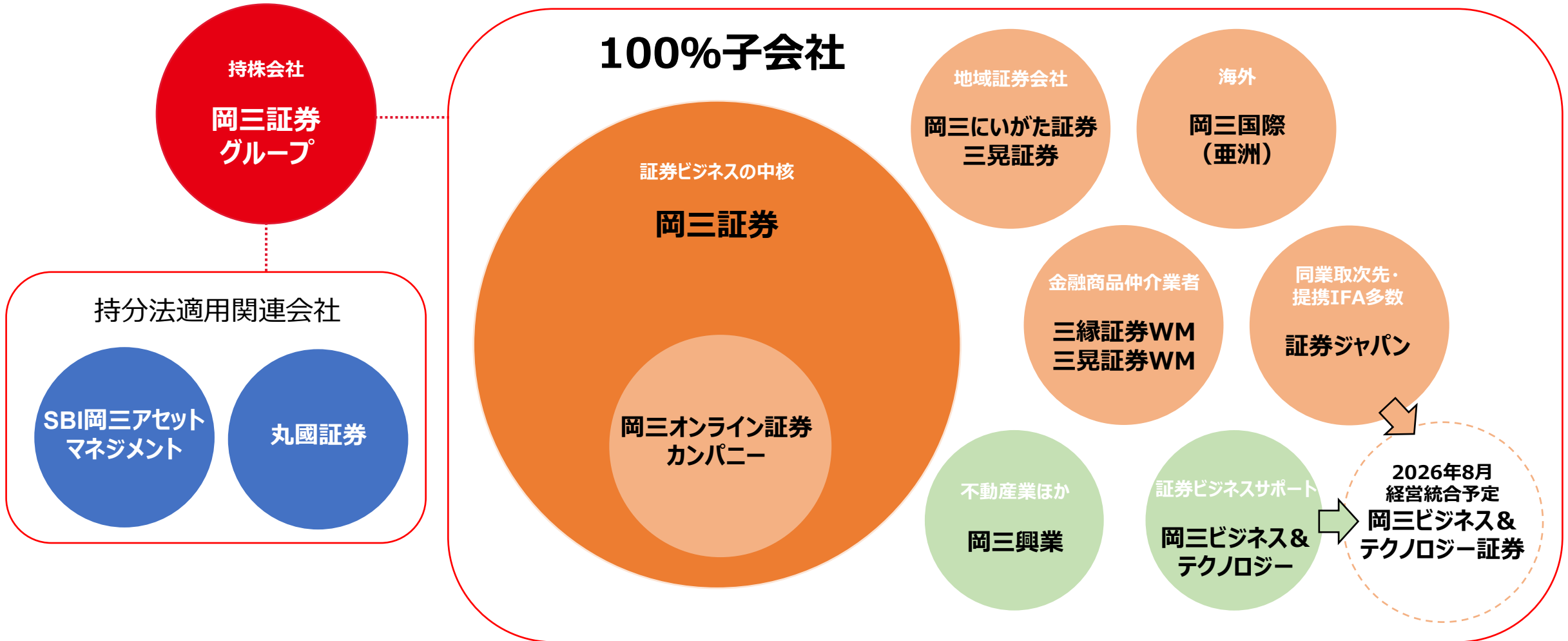
2025年

- 3月 ・株主還元方針を強化
- 4月 ・三晃証券ウェルスマネジメント事業開始
・岡三ビジネス&テクノロジー事業開始
・新人事制度開始
- 5月 ・三縁証券ウェルスマネジメント事業開始
- 9月 ・岡三キャピタルパートナーズを株式譲渡
- 11月 ・二階建て株主優待制度の導入を発表

2026年

- 3月 ・岡三オンライン証券の一部の事業譲渡を決定
・株主還元方針強化に伴う特別配当の実施を発表
- 5月 ・筑邦銀行と業務委託契約締結
（ちくぎんインベストメントプラザ開業）
- 6月 ・山形証券ウェルスマネジメント事業開始
・三津井証券ウェルスマネジメント事業開始
- 8月 ・証券ジャパンと岡三ビジネス&テクノロジーの
経営統合により、「証券プラットフォーム」の
運営に特化した岡三ビジネス&テクノロジー
証券が発足

グループ概要



預り資産
10.1兆円

口座数
110万口座

証券ビジネス拠点数
117拠点

(2026年3月末時点)

事業ポートフォリオの最適化

2025年 岡三キャピタルパートナーズの株式を譲渡、SBI岡三アセットマネジメントの傘下に

2026年 岡三証券における岡三オンライン証券事業の一部をSBI証券へ譲渡

スマートフォンアプリ
「OKASAN Plus」
⇒お客さま接点の高度化と利便性の向上

対面コンサルティングサービスと蓄積されたデジタル知見の融合により、お客さま体験価値を最大化へ

営業支援・顧客管理システム
「岡三NBA Plus」
⇒営業活動の効率化と分析の高度化

ポートフォリオ分析サービス
「岡三ARMS」
⇒多角的な資産分析による顧客提案の高度化

対面コンサルティングを軸としたデジタル推進体制への『選択と集中』

03

成長戦略（1） 「One to Oneマーケティングの強化」

「コア資産」の取り込みによる「ストック型」収益の拡大（※中期経営計画より再掲）

「One to One マーケティング」の推進により、お客さまの資産全体を捉えた
トータルコンサルティングを行うことで、「コア資産」を含む預り資産残高を拡大させるとともに、
預り資産残高に連動して手数料を受け取る「ストック型」収益の増大を図る

資産全体を捉えた トータルコンサルティング

- 商品の単体売りではなく、
相続・事業承継対応などを含む
**資産全体のトータルコンサルティング
を実施**
- 多様なお客さまのニーズに的確に
お応えする**商品ラインナップ・
ソリューションメニューを拡充**
- 高付加価値のコンサルティングを
サポートする**デジタルツールを導入**

「コア資産」の取り込み

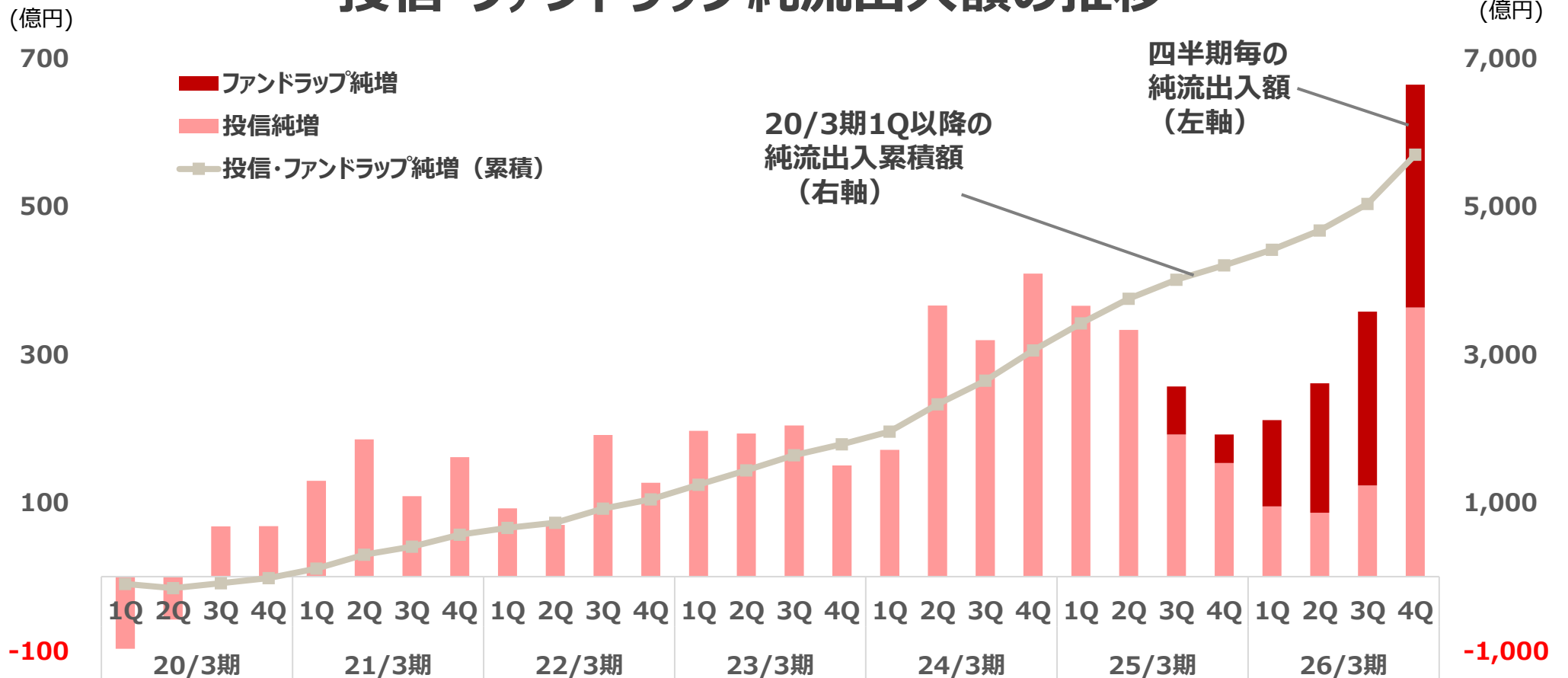
- 資産全体を捉えた
トータルコンサルティングを行うことで、
お客さまにとって**メインの金融機関**
となり、「コア資産」を含む預り資産
残高の拡大を図る
結果、**お客さま一人ひとりにおける
ウォレットシェアが拡大**
- ライフステージに応じた多様な
サービス提供により、**親・子・孫など
世代をつなぐ取引関係を構築**

「ストック型」収益の拡大

- 従来の「サテライト資産」を主とする
「フロー型」収益に加え、預り資産
残高に連動して手数料を受け取る
「ストック型」収益を拡大
- 「コア資産」向けの**商品の拡充や、
手数料体系の多様化の検討など
を推進**

投信・ファンドラップ純流出入額の実績

投信・ファンドラップ純流出入額の推移



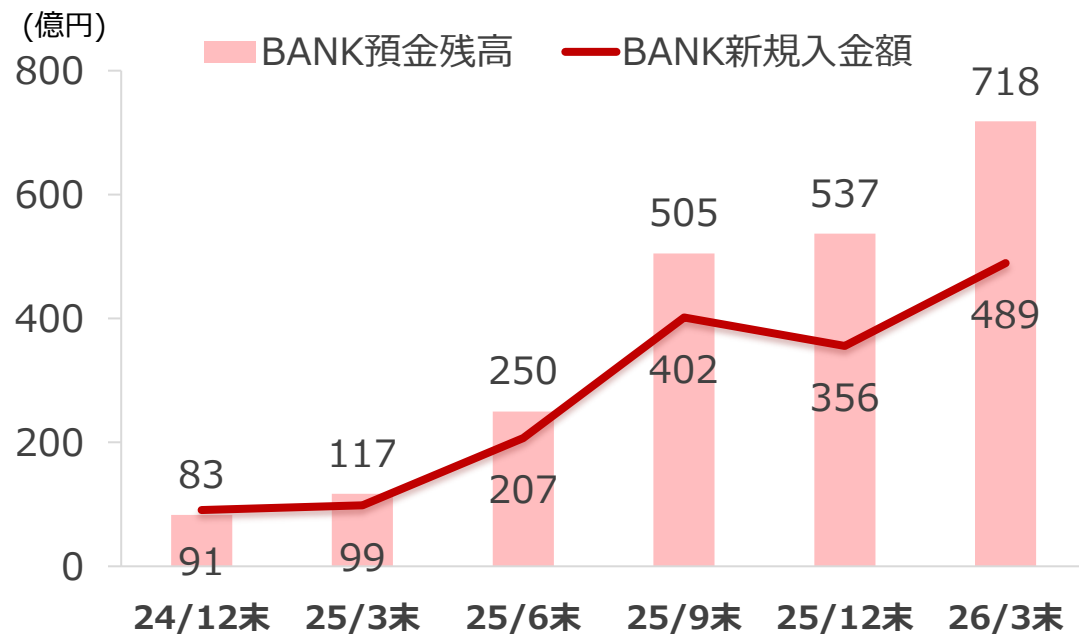
営業戦略の変遷・進化

| | | |
|--------------|--|-------------------------------------|
| お客さま本位の営業の徹底 | お客さまニーズに合わせた営業体制の再構築 (CX戦略、店舗戦略、カンパニー制等) | One to Oneマーケティングの強化 (トータルコンサルティング) |
|--------------|--|-------------------------------------|

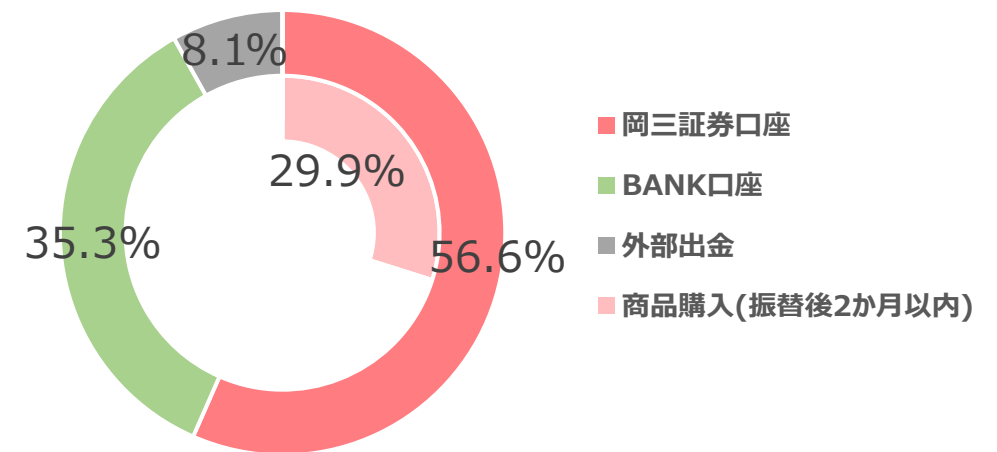
岡三BANKの状況

- ✓ 預金残高は700億円を突破
- ✓ これまでアクセスが難しかったお客さまの背景資金の導入に貢献
- ✓ 満期を迎えた定期預金の約92%が岡三証券内に滞留
(56.6%は証券口座へ振替、35.3%はBANK口座に滞留)

預金残高と新規入金額の推移

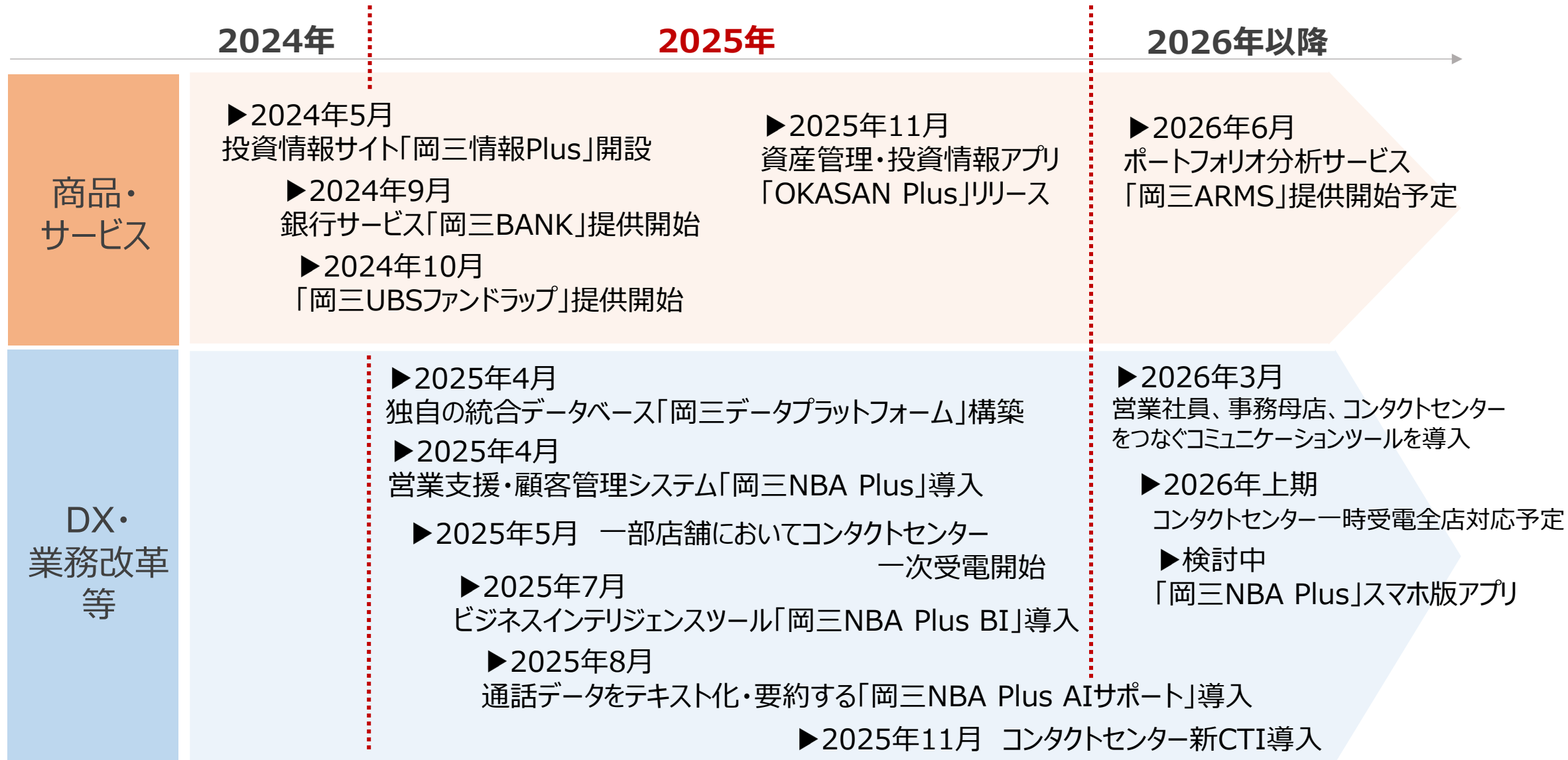


満期を迎えた定期預金の「振替先」



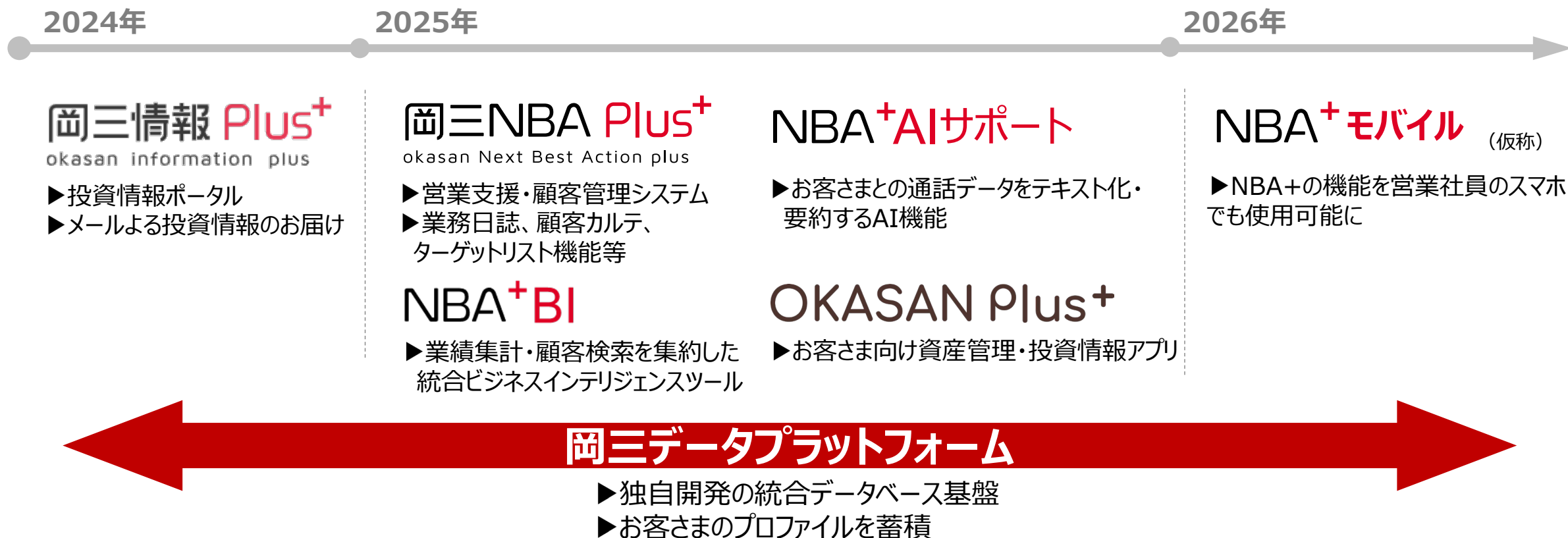
※2025年2月～2026年4月に満期を迎えた定期預金について分析。

リテール営業における主な取り組みと今後の予定



岡三独自のリテール営業モデルの確立へ

- ✓ 独自の統合データベース「岡三データプラットフォーム」を基盤に、「Plusシリーズ」を構築
- ✓ 対面営業×デジタルの融合により、“岡三独自のリテール営業モデル”の確立を目指す



アクティビティ時間（お客さまとの接触時間）の創出

- ✓ 業務効率化に向けた各施策を推進
- ✓ 営業社員の非営業的な業務負荷が減少し、アクティビティ時間は約25%増加

業務効率化に向けた施策（26/3期）

「Plusシリーズ」によるDX推進

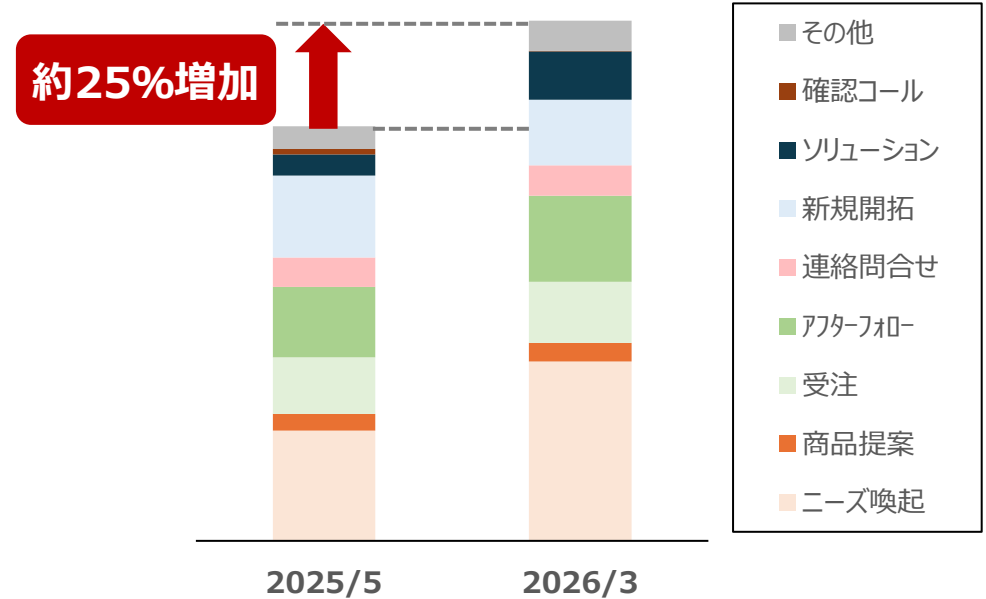
- データベースに基づくターゲットリストの通知
- 顧客カルテ機能
- アプリを通じたダイレクトマーケティング
- AIによる通話内容の文字起こし
- AIによる顧客プロフィールの自動登録

業務プロセス改革

- 業務フローの簡素化
- コミュニケーションツールの導入
- ペーパーレス推進
- コンタクトセンターによる一次受電対応
- AIによるコンプライアンスの高度化



アクティビティ時間



※営業社員1人あたり一日平均

改革に向けた組織再編

岡三証券グループ

改組

DX戦略部

グループ全体のDX戦略を推進

岡三証券

新設

DX推進部

DXを活用したサービス・業務改革・マーケティングの推進

改組

DX開発部

システム・アプリケーション等デジタル技術の導入による業務効率化を推進

DXによる業務改革を加速

岡三証券

新設

ホールセール本部

新設

リテール本部

グローバル
マーケット
ツ部門

法人
部門

投資
銀行
部門

リテール
DX
部門

リテール
カンパニー
統括
部門

プロダクト・ソリューション
開発
推進
部門

**意思決定スピードの迅速化、
専門性の向上と効率的な組織運営を目指す**

岡三ARMSについて

- ✓ 2026年6月、ポートフォリオ分析サービス「岡三ARMS」を導入
- ✓ 米ブラックロック社による「Aladdin Wealth™（アラジン・ウェルス）」を活用
- ✓ ポートフォリオ管理提案の質的向上により、コンサルティング営業のさらなる高度化を図る
- ✓ 顧客資産状況の把握や提案作成にかかる労力の削減により業務を効率化

要対応顧客の一覧化

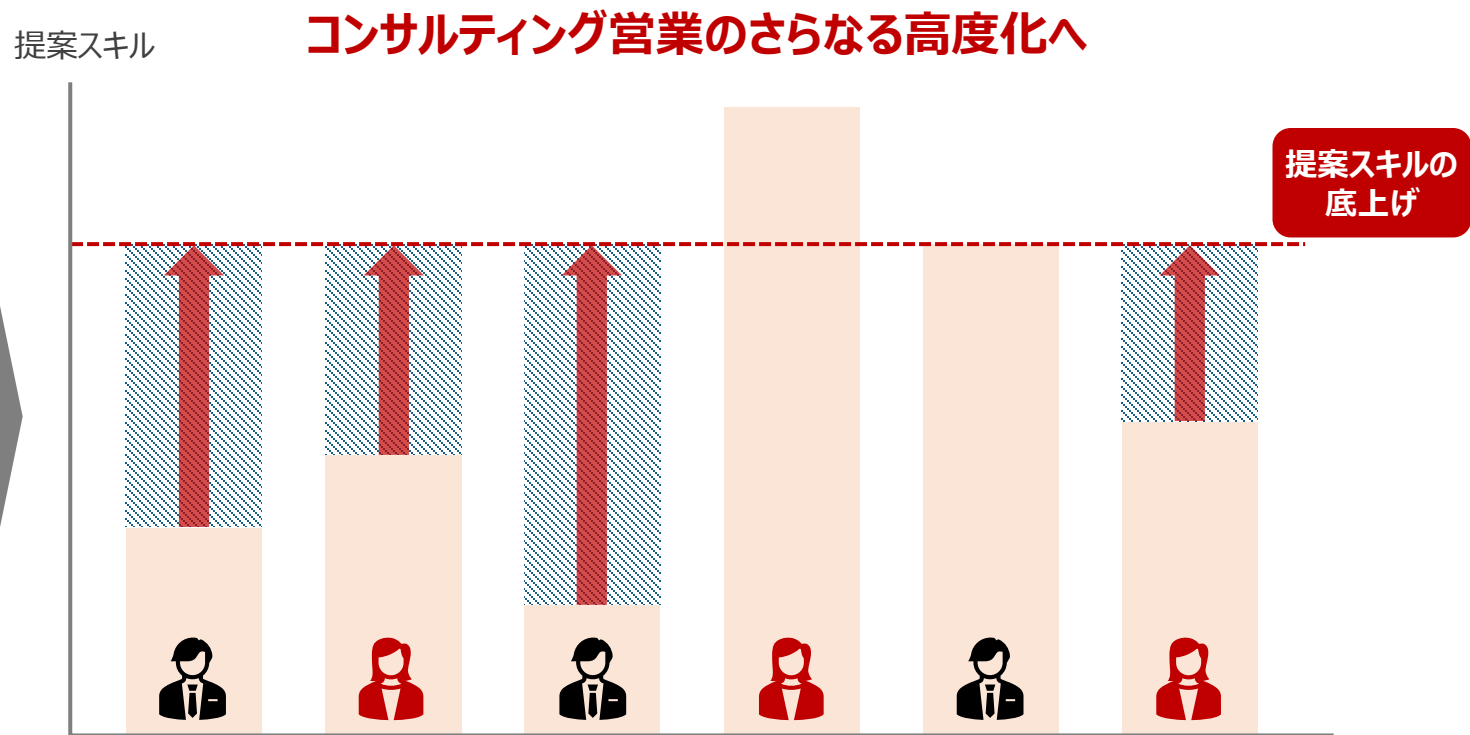
- ・担当顧客のうち、特にリスクを抱える顧客を簡単にソーティング可能

ポートフォリオ分析～銘柄提案

- ・ポートフォリオのヘルススコアを分析の上改善に向けた最適な銘柄提案をワンクリックで取得

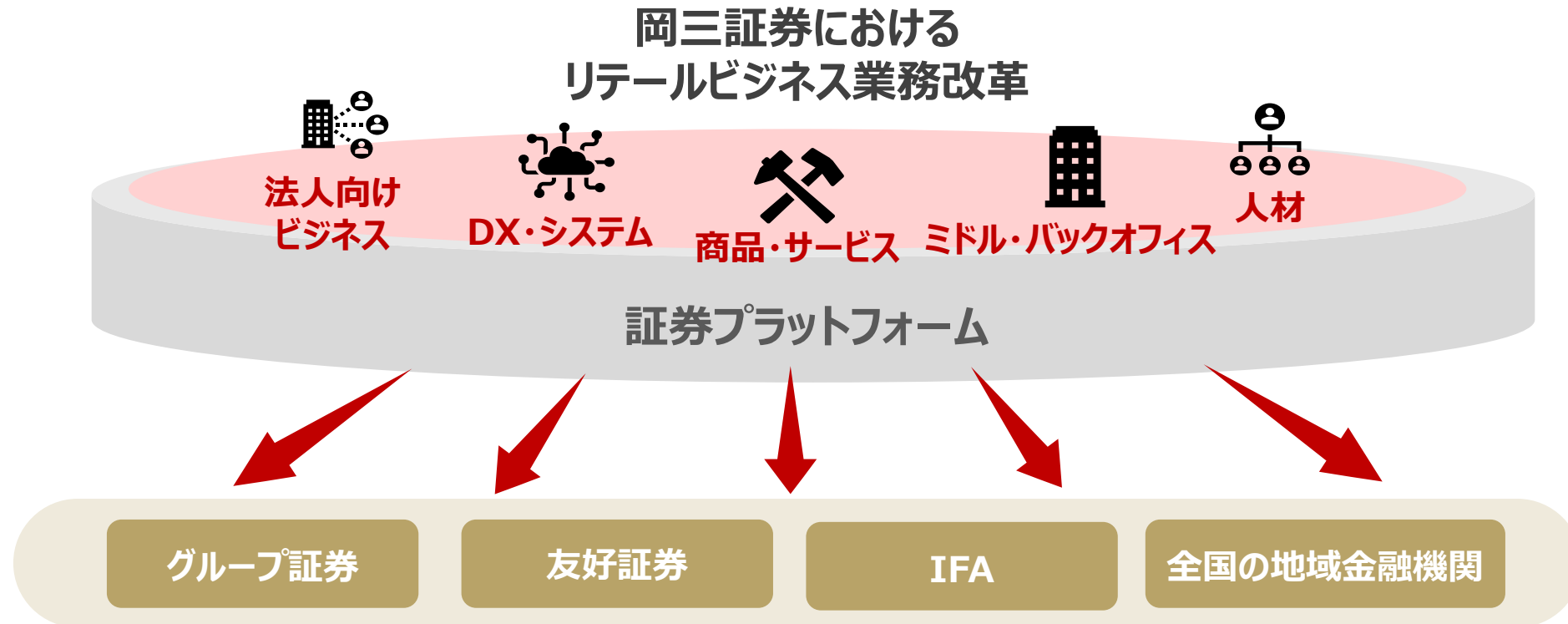
ワンクリックレポート出力

- ・顧客の資産状況の改善点を即座に共有可能な提案レポートをワンクリックで出力可能



リテールビジネス業務改革をプラットフォームに活用

- ✓ 岡三証券の業務改革を活用し、プラットフォームを高度化
- ✓ 業務改革の動きをグループ内外へ拡大していく



03

成長戦略（2） 「プラットフォームの高度化」

プラットフォームの高度化 (※中期経営計画より再掲)

証券ビジネス機能を強化し、グループ内外に対して「証券 as a Service」の展開を加速

お客さま



アライアンスやM&A等の推進により、多様な営業チャンネルに証券サービスを提供

岡三証券 (対面、オンライン)

グループ証券

友好証券

IFA

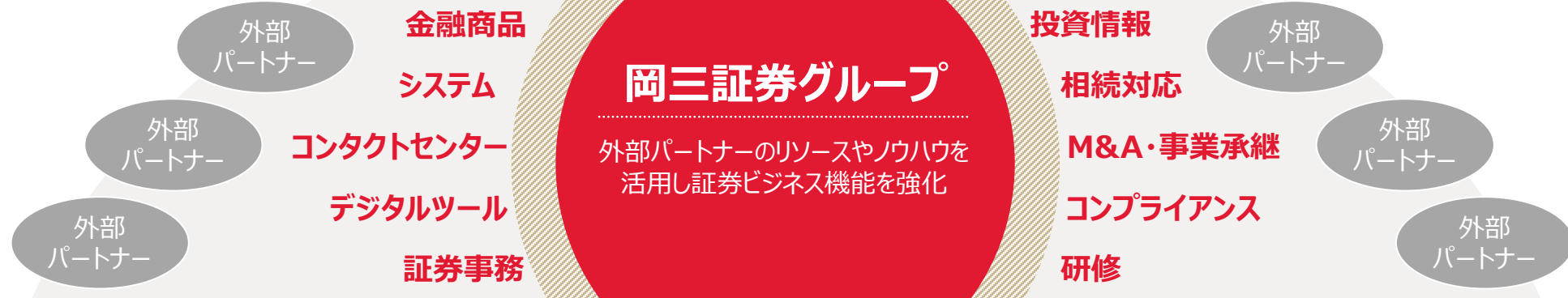
全国の地域金融機関

「量 (営業チャンネル) の強化」

多様な営業チャンネルで
より多くのお客さまへサービスを提供

「質 (証券ビジネス機能) の強化」

自前主義にこだわらず
他社リソースを効果的に活用

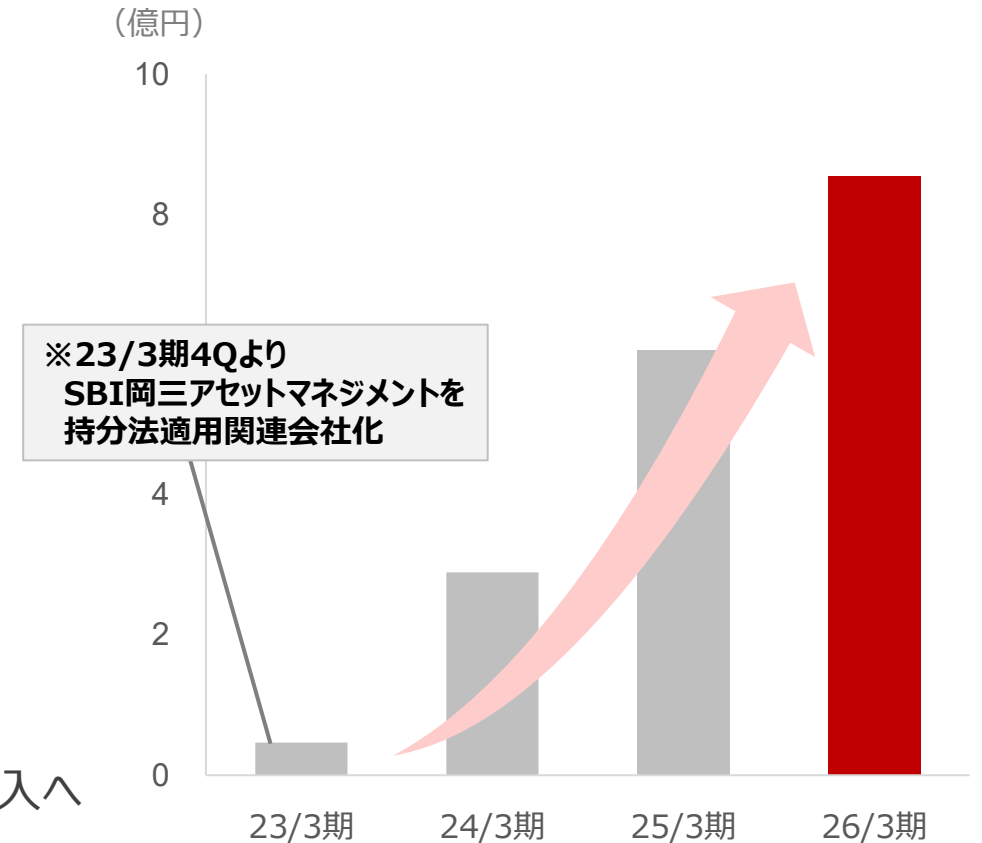


プラットフォームの「質の強化」 ～オープンアーキテクチャ～

業態を超えた外部リソースの活用

- ✓ 基幹システムを共同利用型に移行
- ✓ UBSグループの知見を活用した岡三UBSファンドラップを導入
- ✓ BaaSを活用した銀行サービス「岡三BANK」を開始
- ✓ 旧岡三AMの合併化によりSBIグループの販売網を活用
- ✓ 社内版ビズリーチ「HRMOS」導入で社内転職を活発化へ
- ✓ 米ブラックロック社のポートフォリオ分析サービス「岡三ARMS」導入へ

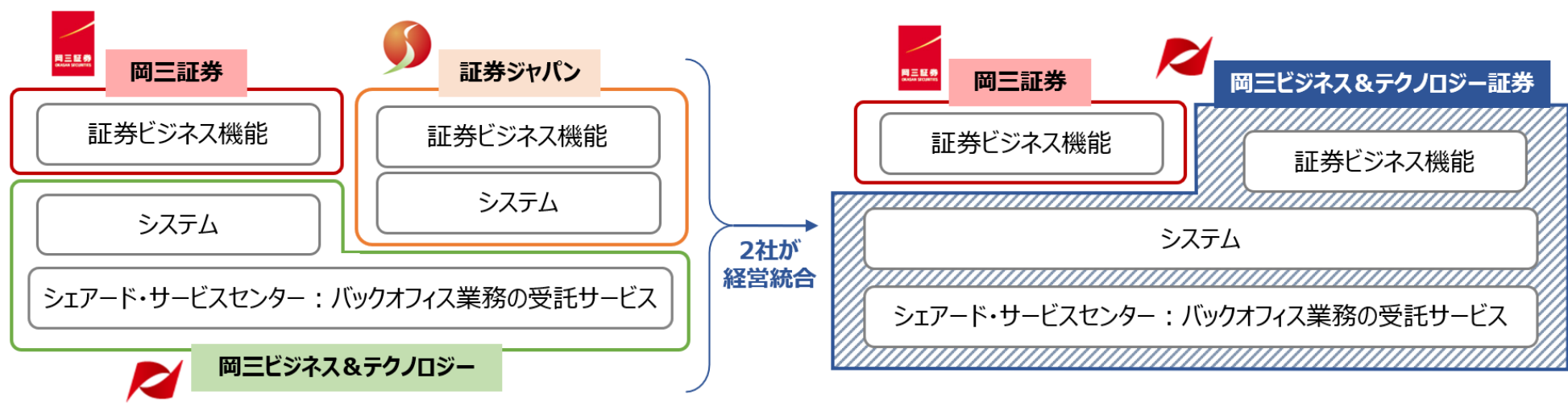
持分法による投資利益推移



統合新会社「岡三ビジネス & テクノロジー証券株式会社」



- ✓ 2026年8月1日（予定）に株式会社証券ジャパンおよび岡三ビジネス & テクノロジー株式会社が経営統合へ。証券ジャパンの「対面営業」は同社子会社の株式会社SJアドバイザーズへ移管
- ✓ 「証券プラットフォーム」の運営に特化した企業として、利用会社のフロント以外の業務を全般的に担う、当該事業の戦略的中核企業へ
- ✓ 証券ジャパンのプラットフォーム運営に加えて、岡三証券のプラットフォーム運営のシステム・バックオフィス業務も支援

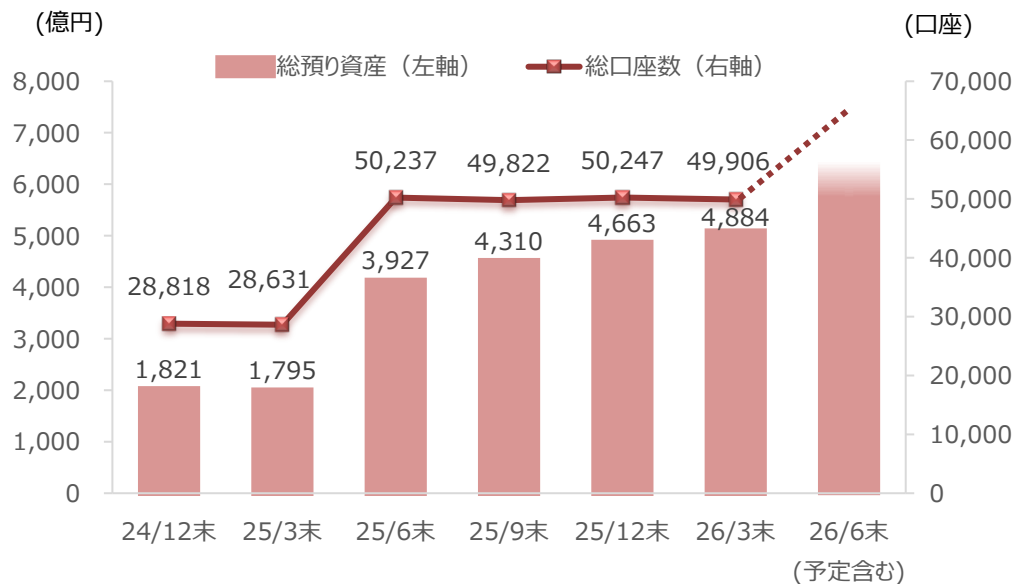


※ 証券ビジネス機能とは、証券会社が必要とする商品・ソリューション、情報、取引・決済、コンプライアンス対応等の各種機能を指します。

プラットフォームの「量の強化」 ～証券プラットフォーム事業～

- ✓ 累計実績10社+予定3社（6月に山形証券と三津井証券、8月に証券ジャパンを予定）
- ✓ 5月には初めて地方銀行と業務委託契約を締結。当該事業の対象が従来の「証券会社」に加えて、「地方銀行を含む地域金融機関」へと広がり、成長は加速フェーズへ移行

総預り資産・総口座数の推移



転換・導入実績

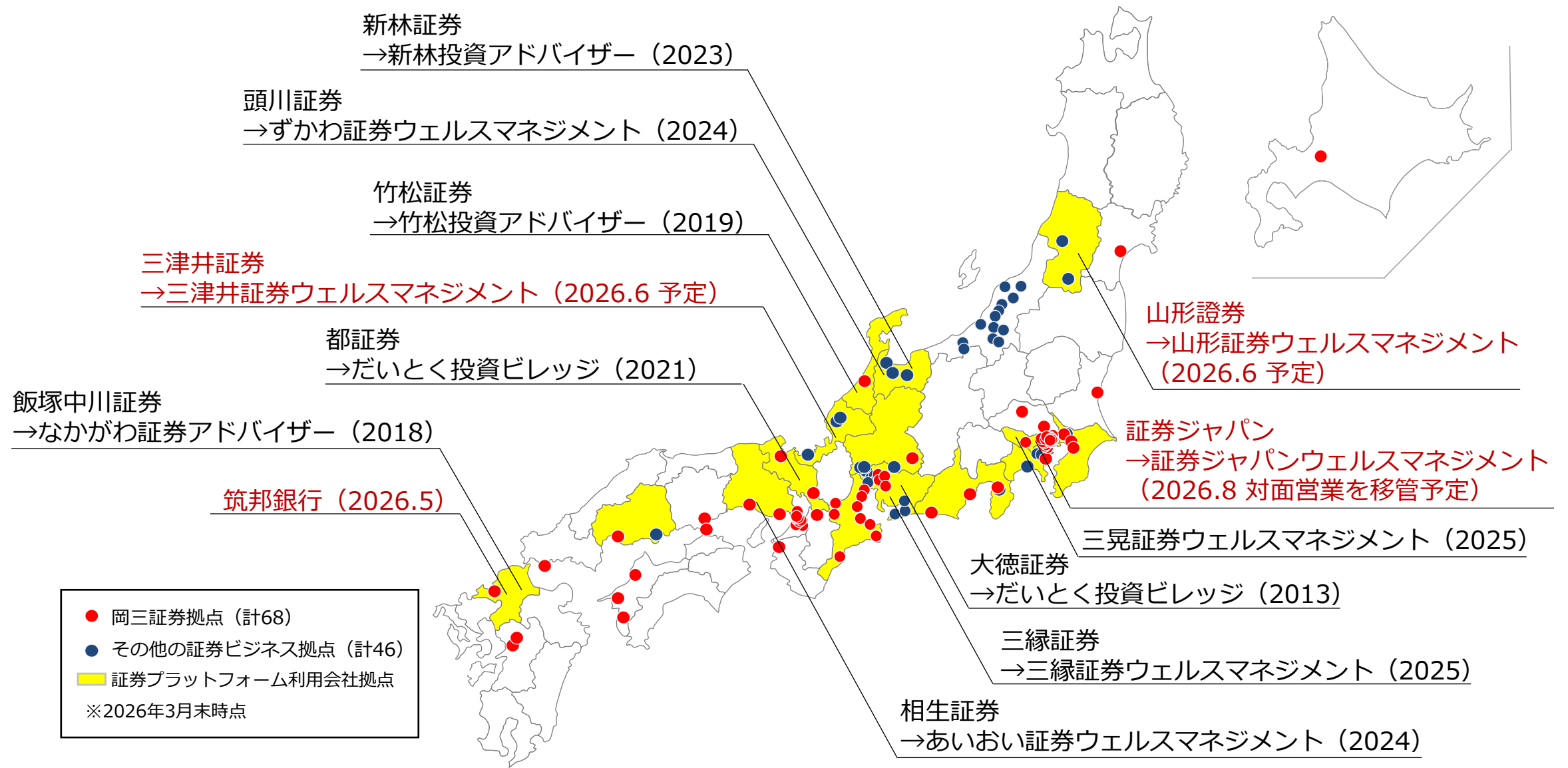
【岡三証券】(4社)

- 2024年 相生証券 → あいおい証券ウェルスマネジメント
- 2025年 三晃証券 → 三晃証券ウェルスマネジメント (設立)
- 2025年 三縁証券 → 三縁証券ウェルスマネジメント
- 2026年 筑邦銀行「ちくぎんインベストメントプラザ」

【岡三ビジネス&テクノロジー証券】(9社)

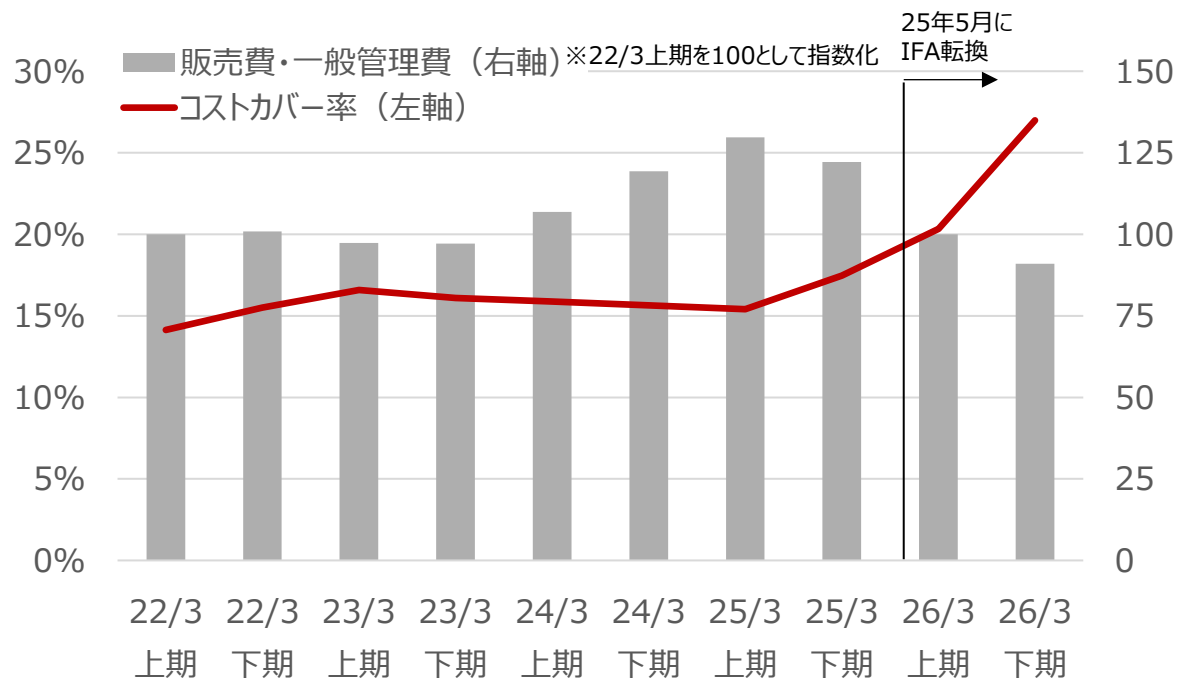
- 2013年 大徳証券 → だいとく投資ビレッジ
- 2018年 飯塚中川証券 → なかがわ証券アドバイザー
- 2019年 竹松証券 → 竹松投資アドバイザー
- 2021年 都証券 → だいとく投資ビレッジ
- 2023年 新林証券 → 新林投資アドバイザー
- 2024年 頭川証券 → ずかわ証券ウェルスマネジメント
- 2026年 山形証券 (予定) → 山形証券ウェルスマネジメント
- 2026年 三津井証券 (予定) → 三津井証券ウェルスマネジメント
- 2026年 証券ジャパン「対面営業」を同社子会社SJアドバイザーズへ移管 (予定) → 証券ジャパンウェルスマネジメント

証券プラットフォーム事業の展開状況

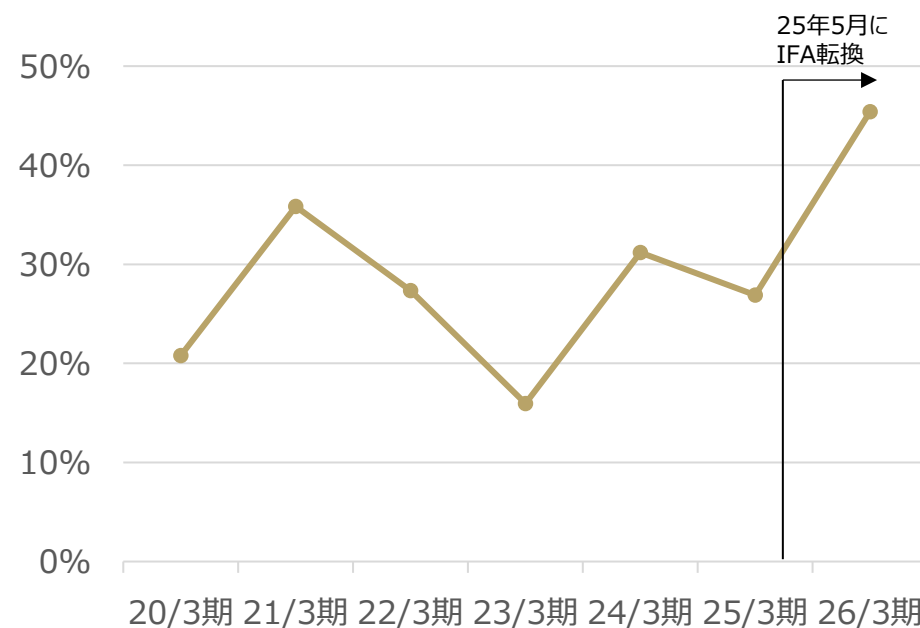


- ✓ 2025年5月に岡三証券のプラットフォームの利用を開始した三縁証券ウェルスマネジメントは、高収益体質への転換が進む
- ✓ 同年8月には岡三UBSファンドラップや岡三BANKの取り扱いも開始

コストカバー率と販管費の推移



営業利益率の推移

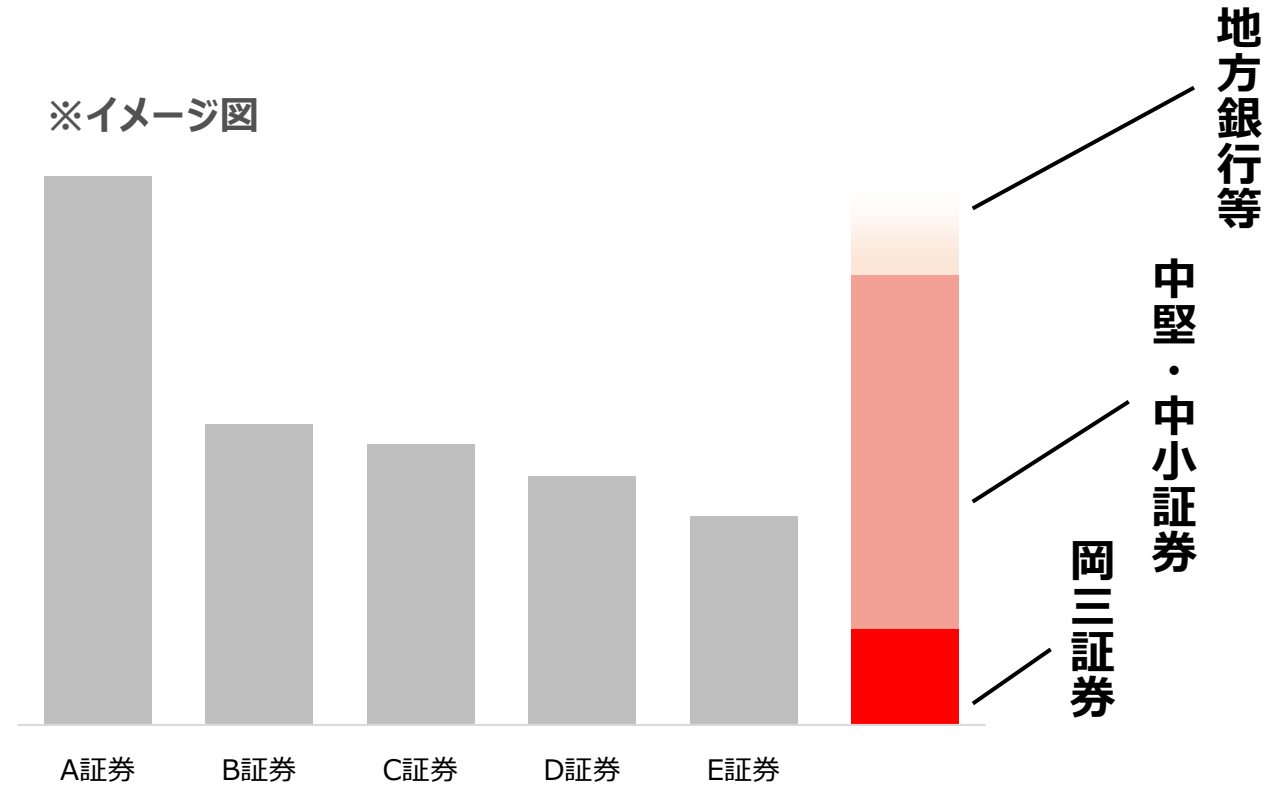


証券プラットフォーム事業のポテンシャル

証券プラットフォーム事業の対象が、中堅・中小証券に加えて、地方銀行を含む地域金融機関へと拡大したことにより、当該事業の成長ポテンシャルは大きく向上

＜大手証券のリテール事業における純営業収益との比較＞

※イメージ図



【証券業界の現況】

システム関連費用や、各種規制強化に伴う費用等の増加により、証券ビジネスに必要な機能の運営コストは拡大傾向にある。

03

成長戦略 (3) 「コーポレートブランディングの進化」

コーポレートブランディングの進化 (※中期経営計画より再掲)

「インナー・ブランディング」と「アウター・ブランディング」の相乗効果により企業価値の向上を実現

インナー・ブランディング



社員エンゲージメントの向上

岡三証券グループ社員

- 社員と会社の目指す方向性の共有化
- 優秀な人材の確保・流出防止
- 生産性の向上
- 倫理観の一層の向上

アウター・ブランディング



企業イメージ・認知度の向上

お客さま、株主・投資家、
ビジネスパートナー、地域社会 など

- 金融のプロフェッショナルとして
ステークホルダーから選ばれる会社へ
- 地域社会との共存共栄
- 業績向上、株価向上

企業価値の
向上

社員からも選ばれる会社へ

2025年4月 新人事制度を導入

魅力的な報酬水準

年齢にとらわれない能力に応じた処遇

個々の志向や適性に沿ったキャリア形成や働き方

Okasan EX Score
「当社で働きたいと感じる」(10pt満点)

2023年4月 中期経営計画始動

2024年1月
6.26pt

2025年1月
6.34pt

2025年8月 一人当たり年間最大1,000,000円相当の
従業員向け株式報酬制度

2025年10月 転勤や雇用年齢上限を設けない新コンセプト店舗

2025年4月 ビズリーチ社の人財活用システム「HRMOS」を導入し、キャリアを「見える化」

2026年2-3月
6.65pt

「スコアの持続的な向上」

メディア掲載による認知拡大

人事施策はメディアからも注目を集めた

- ・ **一人当たり年間最大1,000,000円相当の従業員向け株式報酬制度**

2025年6月25日 日本経済新聞「入社3年目から社員に株式報酬 岡三証券、年最大100万円」

2025年7月9日 NHK/ニュースーン「広がる“新たな賃上げ” 従業員に自社株 ねらいは？」

- ・ **転勤や雇用年齢上限を設けない新概念店舗を設置**

2025年11月6日 日本経済新聞「岡三証券に72歳支店長 大阪に年齢上限ない新店」

2025年11月10日 テレビ東京/WBS「岡三証券 72歳“支店長”が率いる女性店舗」

2025年11月20日 週刊新潮「岡三証券で誕生したお祖母ちゃん支店長の経歴」

- ・ **ビズリーチ社の人財活用システム「HRMOS」を導入し、キャリアを「見える化」**

2025年12月22日 日本経済新聞「欲しい人材は社内でスカウト 岡三証券など、人事異動の新潮流に」

新テレビCM（ブランディングイメージの向上）

- ✓ 2026年4月より、東海エリアで新CMを放映開始
- ✓ 「お客さまの人生に貢献する」という普遍の想い・証券プラットフォームを通じた価値提供を訴求

【岡三証券グループCM】「変わらないもの（東海）」編



社会課題解決を通じた企業価値向上の取り組み

➤ 2025年9月~10月：
「おから」から生まれたスケッチブックを作成し、
フコク生命作成のおやさいクレヨンと共同で贈呈する取り組みを実施



➤ 2025年9月には国内初の「オレンジボンド」の引受けや、
ファンドを通じて得た収益の一部を寄付するなど、
事業活動を通じた社会課題解決への取り組みを継続

➤ SDGsについて楽しく学ぶことをテーマとする
『夏のわくわくキッズフェス2025 in日本橋』に出展
金融教育を通じた地域社会との共生を継続的に推進



04

經營指標目標、株主還元等

経営指標目標 (1)

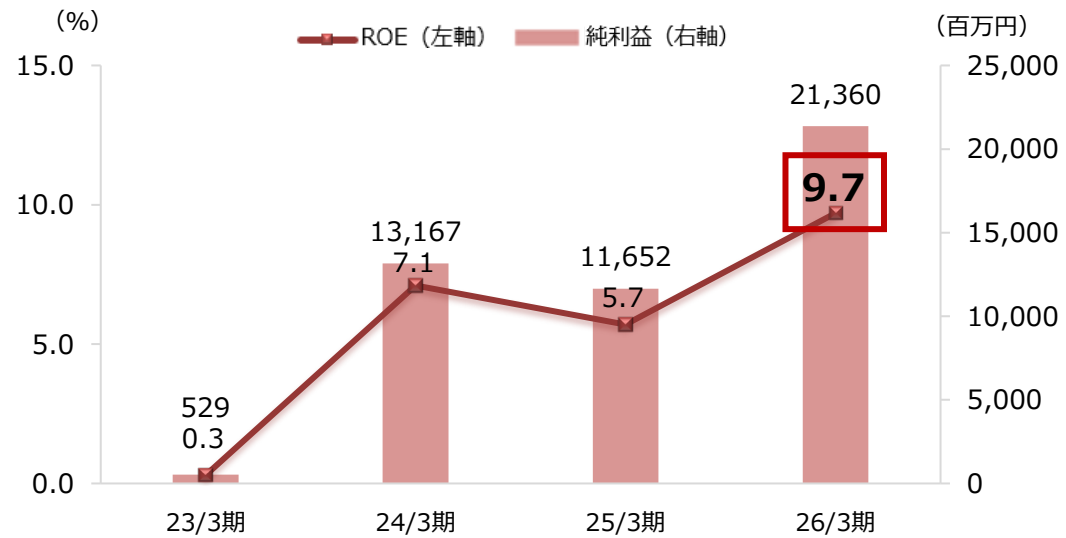
| ステークホルダー | 項目 | 2023年3月末 | → 2026年3月末 | 2028年3月期 達成目標 |
|---------------|--|---|---|------------------|
| お客さま | 預り資産 | 6.9 兆円 | → 10.1兆円 前倒して達成 | 10.0 兆円 |
| | 投信預り資産 | 1.8 兆円 | → 2.4兆円 | 3.0 兆円 |
| | お客さま満足度*1 | 5.8 点 (2023年3月実施) | → 6.9 点 (2026年3月実施) | 7.0 点 |
| 社員 | 社員エンゲージメント*1 項目「当社で働き続けたい」 | 6.26pt (2024年1月実施)※10pt満点中 | → 6.65 pt (2026年2-3月実施)※10pt満点中 | スコアの 持続的な向上 |
| | 営業社員数*1 | 1,428 人 | → 1,667人 | 2,000 人 |
| ビジネス パートナー | 岡三プラットフォーム (証券Plus) 利用会社数*2 | 4社 | → 9社 筑邦銀行 (5月)、三津井証券ウェルスマネジメント・山形証券ウェルスマネジメント (6月)、証券ジャパンウェルスマネジメント (8月) を含めて計13社へ | 15 社 |
| 株主 | ROE 特別配当:還元策強化 (P45) | 0.3 % | → 9.7% 安定的な8%超維持へ | 8.0 % |
| | 総還元性向 | 29.5 %~1,248.0 % (2021年3月期~2023年3月期) | → 53.8% (予定) | 50.0 % |
| | コストカバー率*3 | 15.0 % | → 24.4% | 30.0 % |

*1. 中核子会社である岡三証券単体の値。*2. 当社グループが提供する証券プラットフォーム「証券Plus」を利用する、証券会社等を母体とする大口IFA事業者等。

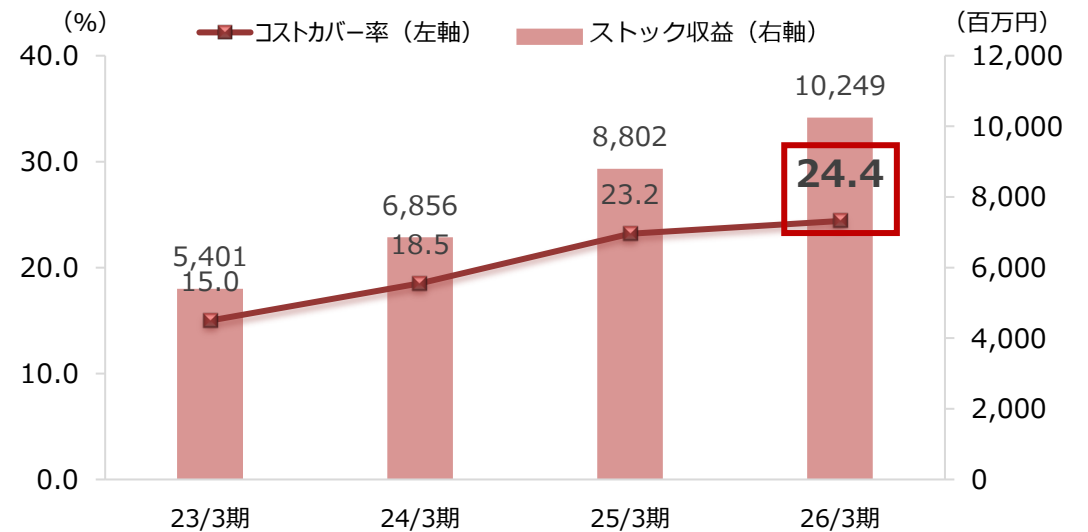
*3. 岡三証券 リテールカンパニー統括部門における「ストック型収益÷販管費」の値。

経営指標目標 (2)

ROEの推移



コストカバー率の推移



※岡三証券 リテールカンパニー統括部門における「ストック型収益÷販管費」の値

※コストカバー率は2026年3月末時点のデータ

PBR向上に向けた取り組み

**PBR水準
向上**

ROE向上

安定的に8%以上を達成
(26/3期：9.7%)

×

PER向上

資本コスト低減
期待成長率向上

- ✓ 収益性の高いビジネスの伸長
- ✓ 事業ポートフォリオの見直し
- ✓ 成長投資と株主還元バランス

経営改革

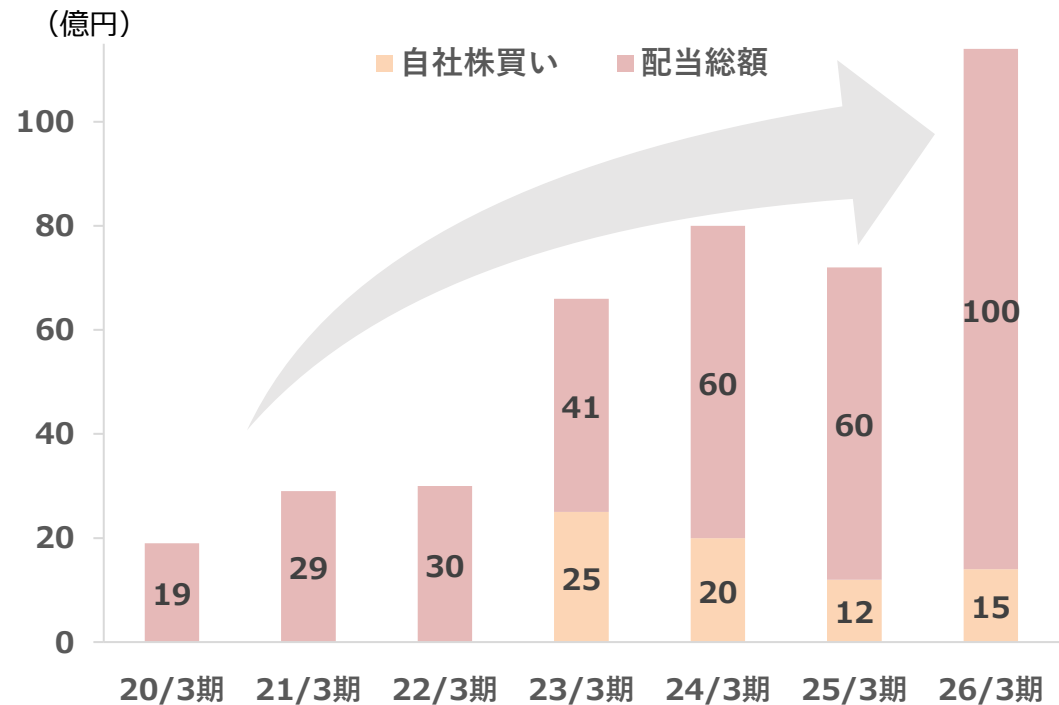
- ✓ ストック型収益の積上げ
- ✓ IRによる情報の非対称性の緩和
- ✓ KPI進捗の定期的な開示
- ✓ 成長戦略の推進

市場評価

成長投資と株主還元のバランス

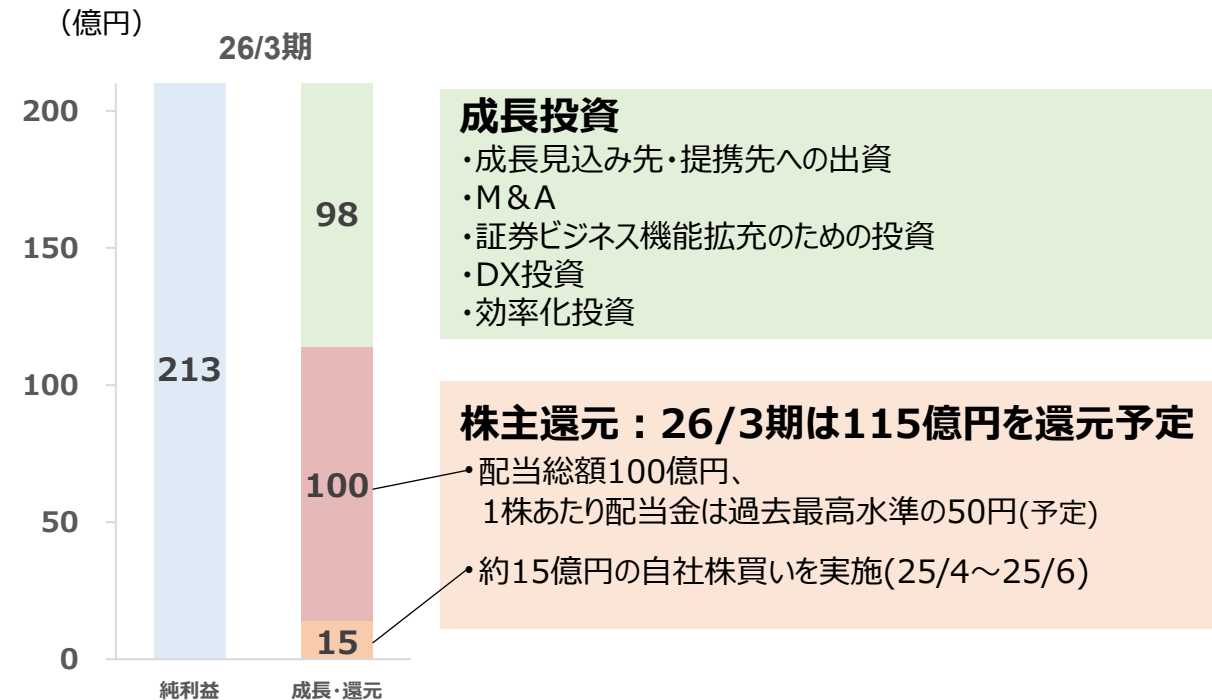
- ✓ 特別配当を加えた2026年3月期の期末配当金は50円、過去最高水準
- ✓ 成長性とビジネスのポテンシャルを十分に検討し、収益性の高いビジネスへ資本投下

還元総額の推移



※23/3期に総還元性向50%以上の目標を導入

成長投資と株主還元のバランス



還元方針の強化と株主優待

- ✓ 基本方針：安定的な配当の維持・継続を勘案しつつ、業績の進展に応じた配分
- ✓ 総還元性向50%以上。3年間で総額100億円以上の特別配当を実施(2026年3月期～2028年3月期)
- ✓ 26年3月期より新たな株主優待（電子マネー贈呈）導入、27年3月期より岡三BANK特別金利

期末配当金（予定）

| | 2025年3月期 | 2026年3月期 | 2027年3月期 | 2028年3月期 |
|----------------|----------|---|--------------------------------|--------------------------------|
| 1株当たり 期末配当金 | 30円 | 50円 普通配当40円 特別配当10円 | 未定 普通配当未定 特別配当20円 | 未定 普通配当未定 特別配当20円 |

新たな株主優待



保有株式数・保有期間に応じた2階建ての株主優待導入

- 1階部分：電子マネー贈呈
(26/3期スタート)
- 2階部分：岡三BANK特別金利
(27/3期スタート)

目的：長期保有の株主さまの増加

人生真諦

株式会社 岡三証券グループ

OKASAN SECURITIES GROUP INC.